

2023

April

304号



はるあまに

●医療法人創和会広報誌はるあまに / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和5年4月1日発行



研究所附属病院 院長 真鍋 康二

研究所附属病院2023年度の事業方針 ～健康であることの幸せを、さらに多くの人と共に～

新型コロナが私たちにもたらした成長を活かす

2020年～2022年度の3年間、皆さんの大変なご尽力で私たちの病院も新型コロナウイルス感染症に適切に対応できました。院内クラスターの経験も含めて感染防御のみならず、さまざまな疾患への治療内容も病院全体で向上しました。

それによって、多くの患者さんの入院を引き受けたことが病床利用率の上昇と透析患者さんを含む外来患者さんの増加に現れています。成し遂げた「成長」をさらに活かしていきたいと考えます。

良質な医療のさらなる展開を目指していきます

透析医療の中心的存在として、より良い透析を提供できる体制を構築していきます。400人を超える透析患者さんを受け入れている私たちの病院での受け入れ体制強化に加え、しげい病院と協力して来年初夏に開院予定の早島町の透析クリニックでさらなるニーズに応えます。全国的に取り組まれている慢性腎臓病の進行予防にも、腎不全に取り組んでいる私たちの使命として対応します。

高齢の入院患者さんには、一人ひとりの生活機能と環境を踏まえ、治療と身体機能の維持・回復を図り、全人的医療を行います。人生の最終段階までの適切な対応を目指すために、今まで以上に地域の診療所、介護施設、訪問看護師、ケアマネ

ジャーなどと共に質を高め合う連携を広げ、研究所附属病院からの訪問診療の役割も果たします。

消化器領域を中心とした「がん診療」にも、力を入れます。今年リニューアルする「内視鏡センター」で多くのがんに対して、今まで築いてきた高度急性期病院との緊密ながん連携を活かし、包括的ながん診療の提供をさらに進めていきます。

さらに安全な医療を患者さんと職員に確保します

地域から期待される診療の質も量も上がってきた現在、目指すべきことは今まで以上に安全な医療の確保です。患者さんと職員の安全を守るために、医療安全の推進・院内感染防止の進化・自然災害に対する防災の強靱化を実行します。

職員が幸せであるための安全性の確保として、すべての職員が互いに尊重し協力し合う「心理的安全性」の高い職場風土を達成するために、職員が周囲の職員へ敬意と思いやりを持って振る舞うことを追求します。さらに職員を犯罪から守るために、職員へのハラスメントや不当要求に対しては断固として組織的に対応する体制を整えます。

「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」の理念のもとに、今まで同様に頑張っ

はあもにい倉敷で

「肝・腎かなめの健康講座」を開講しました

しげい病院 看護部 主任 吉本 裕美

最近増えているメタボリックシンドロームでは肝臓も腎臓も障害を受けることがわかっています。昨年の4月から創和会との共同研究でスタートした「岡山大学学術研究院医歯薬学域 肝・腎疾患連携推進講座」の高木章乃夫特任教授としげい病院のコラボ企画として「肝・腎かなめの健康講座 ここがカンジン（肝・腎）！イキイキ元気に暮らすため、生活習慣を見直そう！」が岡山県肝炎相談センターの協賛で3月5日（日）に開催されました。

コロナ禍で健康講座の開催は、はあもにい倉敷を会場に3年ぶりとなりました。定員は30名でしたが、講座当日は満席となり大盛況でした。申し込み期間終了前に定員に達したため、参加を希望されていた方にはやむなくお断りさせていただき、ご迷惑をおかけしました。

肝炎相談センターもコロナ禍でWEB開催が続いていたようですが、皆さん肝臓をプリントした爽やかな水色のお揃いのTシャツを着て旗やのぼりでアピールしていました。

肝炎相談センターからは高木特任教授を含め9名の多職種チーム、しげい病院からは有元院長、リハビリテーション部井本主任、栄養管理部近藤副室長、医療支援部河原課長、吉本の5名、計14名で協力して会場の準備から進行までを担当しました。

高木特任教授から開会の挨拶のあと、「肝臓は沈黙の臓器であり、ウイルス性の肝炎は早期発見すれば治る病気になっている。現在はメタボや飲酒からの脂肪肝が注目されている。お酒は体質により肝障害の出方に違いがある。」などのお話がありました。

有元院長からは、「元気で長生きするためには、腎臓を大切にしましょう。まず自分の腎臓の状態を知るために、検尿と血液検査を受けてください。

またリンと老化の関係が注目されており、リンの過剰摂取を控えましょう。」などのお話がありました。

井本主任は、最近注目されているサルコペニアの予防のために、実技を交えながら手軽にできるエクササイズを紹介しました。近藤副室長は、肝臓病・腎臓病予防のためのメタボ対策の重要性について、食生活の工夫やよく噛むことの大切さを強調されていました。

厚労省作成の肝炎ウイルス検査の啓発動画「後悔のすえに」を視聴した後に、岡山大学病院 新医療研究開発センター 助教 難波志穂子先生から肝炎ウイルス検査の重要性についてお話がありました。最後に有元院長から閉会の挨拶があり、講演終了後に会場で無料肝炎ウイルス検査が実施されました。

参加者からは「久しぶりの健康講座で、病気のことだけでなく運動や食事についてまで全てが聞けて大変勉強になりました。」「肝炎の動画を見て怖いと思ったので、検査を受けようと思いました。」などの声が聞かれました。

岡山大学とのコラボチームで「肝・腎かなめの健康講座」を倉敷地区以外でも開催する予定です。肝・腎疾患連携の重要性を啓発する活動に今後も積極的に参加していきたいと思えます。



▲高木特任教授から開会の挨拶



▲有元院長の講演



▲井本主任がエクササイズの紹介



▲講演終了後に無料肝炎ウイルス検査を実施

回復期リハビリテーション病棟協会 第41回研究大会 in 岡山

■しげい病院 リハビリテーション部 副主任 作谷 誠一

2月24日・25日に倉敷市の川崎医療福祉大学にて、回復期リハビリテーション病棟協会 第41回研究大会 in 岡山が開催され、リハビリテーション部の作谷が参加してまいりました。

今大会は昨今の感染状況により、「現地開催」と「オンデマンド配信」によるハイブリッド開催となっていましたが、日本全国より回復期リハビリテーション病棟に携わる多くの医療関係者が参加されていました。また、今回は岡山県内での開催であり、しげい病院からシンポジストの田中義人先生をはじめ、8演題を発表する運びとなりました。リハビリテーション部からは3演題発表があり、私自身はポスターでの演題発表にて、昨年よりリハビリテーション部に導入さ



▲ポスターでの演題発表

れた歩行支援ロボットを題材にした症例報告を行いました。

未だCOVID-19による感染が継続している現状や昨年の診療報酬改定による重症度割合の引き上げにて、回復期リハビリテーション病棟全体にとっても厳しい状況が続いています。その中で、今大会では回復期リハビリテーション病棟の今後の展望やこの状況下で各施設がされている創意工夫を特別講演や演題による報告にて多数見聞することができました。

厳しい状況の中、これからも引き続き回復期リハビリテーション病棟に求められることは提供医療の質向上であり、密なチームアプローチによる早期の退院支援、医療分野から介護分野へのスムーズな橋渡し、連携が責務となります。回復期リハビリテーション病棟へ携わるスタッフの一人として、今回得た知見や経験を臨床へ汎化し、患者さんへ還元していけるように頑張っていきたいと思えます。

お忙しい中、学会へ参加させていただきありがとうございました。

■しげい病院 通所・訪問リハビリテーション部 主任 立川 真也

しげい病院の関連施設である「健康増進施設 はあもにい倉敷」がブース出展をし、ノルディック・ウォーク（以下NW）の公認指導員として参加しました。

ブースでは歩行動画視聴や歩行体験をしていただき、体験者は「杖とどう違うの。安定して歩けますね。」と興味を持たれていました。また、NWに関する書籍・文献、しげい病院回復期のNW実施状況などを冊子にして展示し、効果について質問される方もおられました。来訪された方のお話では、「私たちの施設でも置いている。」と言われる方が多く、NWの普及を感じるとともに、退院後NWを継続できる支援までは至っていないとも思いました。

はあもにい倉敷では、毎月第2・第4木曜日10:00～12:00ノルディック・ウォーク講座

を実施しています。また、定期的に体験会も開催しています。

今回の機器展示で、退院後のサービスとしてNWの有効性を知っていただけるきっかけになったと思えます。

「No Walking No Life 歩かなければ歩けなくなる。」

健康増進の一つのツールとして今後もNWの普及に努めていきたいと思えます。



▲ブースの前で記念撮影

創和会グループ 臨床工学技士会を開催しました

研究所附属病院 臨床工学部 技士長 畑 綾子

この度、新しく創和会グループとなった医療法人 三祥会 幸町記念病院の岩谷技士長よりお声掛けいただき、2月28日（火）創和会グループ3施設合同の臨床工学技士会を研究所附属病院にて開催しました。

幸町記念病院が数年後に迎える透析関連機器の更新を検討するにあたり、グループとしての方向性の確認と医療法人 創和会（しげい病院、研究所附属病院）の現状報告を行いました。3施設で使用している装置には違いがあり、他メーカーの機器の特徴など興味深い話を聞くことができました。

その他、臨床工学技士としての日常業務である血液浄化療法全般の業務、エコー下穿刺およびVA（バスキュラーアクセス）機能評価に必要な超音波診断装置の選択についてなど、同じグループになったからこそ聞きたいあんなこと、こんなことがお互いに多く、終了予定時間を超える程の貴重な意見交換の場となりました。

また、会議終了後には研究所附属病院の血液浄化療法センターや透析機械室も見学していただきました。

今後も透析関連機器をはじめ透析材料各種の価格交渉、その他医療機器の更新だけでなく、臨床工学技士としての業務を互いに高め合えるよう、創和会グループ3施設合同の臨床工学技士会を継続していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



▲3施設それぞれがとても熱心に意見交換をしている様子

「ひまわり号」4年振りの運行決定

「ひまわり号」は1984年、倉敷の地でうぶ声をあげました。日頃、列車に乗って旅をする機会の少ない障がい者の夢を実現させて、1985年（昭和60年）5月、広島に向けて初めての「ひまわり号」が走りしました。

数えて35回目の2019年、広島県宮島を訪れて以来、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて事業の停止を余儀なくされました。

実に4年振りとなる今年、「ひまわり号」は新型コロナウイルス感染症の推移を注視しながらも、比較的感染リスクが少ない“県内・少人数”の旅を企画しています。

3月30日より「しげい病院」内にある事務局にスタッフが常駐（10時～15時）します。興味のある方は、直接事務局を訪ねていただくか、電話でのお問い合わせをよろしくお願いいたします。

運行実施日：2023年5月28日（日）

訪問地：津山市

車両編成：2両編成

募集人数：障がい者・児 25名、介助ボランティア 40名

参加費：大人 3,000円、小・中・高・大学生 2,000円

募集期間：障がい者・児 4月1日（土）～15日（土）

介助ボランティア 4月1日（土）～29日（土）

問い合わせ先：「ひまわり号」を走らせる倉敷実行委員会

086-422-3655（しげい病院内）



研究所附属病院ホームページをリニューアルしました！



2023.1.31
RENEWAL

研究所附属病院 事務部 栗原 玲音

この度、研究所附属病院はホームページをリニューアルいたしました。患者さんがより見やすく、より快適にご利用できるホームページを目指し、デザイン・構成を一新しました。

以前のホームページではスマートフォンでの閲覧が一部のページで見づらいことや、1ページに対しての説明文章の量のバランス、写真など全て内製でしていたので限界がありました。

今回のリニューアルでは、ホームページ制作会社からCMSという管理システムを契約しました。以前はHTMLという専門のコードを操れる職員でしか更新作業ができませんでしたが、CMSの導入によって誰でも簡単に更新作業を行えるようになりました。

デザイン面では患者さんにより親しんでいただ

けるよう「透明感（清潔感）」・「誠実」・「優しい」というデザインキーワードを設定し、明朝体を基調に、ホワイトスペースを使いシンプルで上品にまとまるデザインになるよう制作会社と何度も打ち合わせを重ねました。

せっかくのリニューアルですのでよりレベルの高いホームページを目指すため、メインで使用する写真や医師の先生方の写真はカメラマンにきていただき撮影を行いました。

最後にはなりますが、今回のホームページリニューアルの制作にご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

今後もさらに利用しやすいホームページを目指していきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



▲ PC用のデザイン



▲患者さんが利用しやすいUIデザイン



▲デザインや原稿の確認、修正



▲写真撮影の様子

「ライフプラン支援制度 (企業型確定拠出年金)」が スタートしました

創和会本部 経営管理部長 横山 誠二



2月1日から、創和会の新しい福利厚生制度「ライフプラン支援制度（企業型確定拠出年金）」がスタートしました。10月・12月の説明会には職員の皆さんに参加していただき、全体の34%の方が加入されました。

今後は、毎年7月にコース変更の案内をさせていただきます。現在企業型確定拠出年金に未加入の人は新たに加入することができ、加入している

人はライフプラン手当と企業型

確定拠出年金の掛金を変更することもできます。

そして、皆さんからのリクエストにお応えして、運用商品の追加の検討も行っています。

今後も説明会等を予定していますので、ご自身のライフプランの変化に合わせて、制度の利用を検討していただければと思います。

EAP相談室コラム

「リカバリー経験」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

皆さんは、日頃しっかりと「休む」ことは出来ているでしょうか。近年の研究では、「仕事のパフォーマンスを高めるためには上手に休むことが重要である」ことがわかってきています。上手な休み方について考えましょう。

<リカバリー経験とは？>

仕事中のストレスや仕事による疲労を回復させるための時間の過ごし方を「リカバリー経験」と呼び、「心理的距離」「リラックス」「熟達」「コントロール」の4種類があります。



心理的距離	仕事から物理的にも心理的にも離れている状態。仕事を考えない状態
リラックス	心身の活動量を意図的に低減させて、くつろいでいる状態
熟達	余暇に趣味、習い事、ボランティアなどの活動を実施すること
コントロール	余暇の時間に何をどのように行うのかを、自分で自由に決められる状態

<リカバリー経験を活用する場>

内的リカバリー (就業時間内)	<ul style="list-style-type: none"> ●短時間の休憩と昼休みの過ごし方を工夫する <ul style="list-style-type: none"> ・デスクから離れて、別の場所で昼食を取る ・仕事でも30分に1回はトイレやコピーなどで席を立ち、デスクから離れる
外的リカバリー (就業時間外)	<ul style="list-style-type: none"> ●余暇の時間で社会的活動に従事するとストレス反応が低下する <ol style="list-style-type: none"> (1) 仕事のストレス要因から離れられる (2) 職場の人間関係に比べて感情のコントロールに向ける努力が少なく済む (3) 周囲からの様々な援助が得られる機会となる

実践のポイントは3つです。まず仕事との距離を保つこと。仕事から物理的・心理的に距離を置くことは、仕事を冷静かつ客観的に見ることにつながり、感情のコントロールと意欲向上につながります。次にリラックスできることをする。仕事によって消費された自分の持ち味の回復を促し、心身の安定につながります。そして挑戦すること。新しいこと、やりがいのあること、視野の広がることに挑戦してみましょう。仕事のことでなくても仕事以外のことでかまいません。達成感や充実感を覚えることで、仕事への新たな意欲を高めてくれるのです。

参考資料：令和元年版 労働経済の分析 ー人手不足の下での「働き方」をめぐる課題についてー

第Ⅱ部 人手不足の下での「働き方」をめぐる課題について

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/19/dl/19-1-2.pdf>

※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。

入職発令（令和5年4月1日付）

しげい病院

診療部門 内科医長 澤木 了
診療部門 内科医長 生田 悠

研究所附属病院

診療部門 内科医長 木下 陽亮

昇格発令（令和5年4月1日付）

しげい病院

診療部門 内科・泌尿器科部長 若林 智生
看護部 副看護部長 守屋 由美
看護部 課長 中尾 敦子
看護部 主任 三好 美緒
看護部 主任 森安 祐子
看護部 副主任 小林 利恵
放射線部 副技師長 藤井 裕三
検査健診部・輸血部 副技師長 佐藤麻里恵
検査健診部・輸血部 主任 古吉 明美
臨床工学部 副技士長 待場 敏
リハビリテーション部 副主任 前田 貴昭
リハビリテーション部 副主任 今若 康久
通所・訪問リハビリテーション部 副主任 市場巴有紀
医療支援部 係長 坂本 有希
地域連携・入退院支援・医療社会福祉課 副主任 松倉 翔
IT推進・情報管理室 課長補佐 本多 雅亮
IT推進・情報管理室 係長補佐 篠原 宏明

倉敷しげい訪問看護ステーション

主任 森分 涼子

重井医学研究所附属病院

診療部門 内科部長 十川 圭司
看護部 課長 藤田 悠子
看護部 主任 前川 富美
看護部 主任 島田真祐巳
看護部 副主任 水杉 智子
薬剤部 薬局長 山本美和子
薬剤部 主任 佐藤みのり
臨床工学部 技士長 畑 綾子
事務部 課長補佐 目黒 将志

重井医学研究所

分子遺伝部門 主任研究助手 小林 朋絵

本部

人事部 副部長 秋山 陽子
倉敷しげい訪問看護ステーション管理者兼務
経営管理部 課長 奥村 裕介



医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「芽吹き彩る春を楽しむ」

日時：4月22日（土）
10：00～12：00

会場：重井薬用植物園



編集後記



●気が付いたら週2でマクドナルドに行くようになっていました。物価の優等生だったハンバーガーも1年前の110円から2回の値上げを経てついに170円になってしまいました。当然セット商品も値上がりしているのですが、そんな中でもマクドナルドアプリのハッピーセットクーポンだけは値段が変わっていないことに気が付きました。ハッピーセットの価格設定は利益がなく、子供をターゲットにリピーターを増やすための戦略的な商品だと聞いたことがありますが多分本当ですね。そして私は今週もこの呪文を唱えるのです。「てりやきマックバーガー単品、クーポン538番、バーベキュー、枝豆コーン、コーラ氷抜き、おもちゃ3番をお願いします。」（MK）

●春の卒業、入学シーズンを迎え私も娘の卒業式へ参加してきました。去年の息子の入学式では歌もなく音楽が流れるだけの式でしたが、今回の卒業式は子供たちの歌う姿を見ることができ、“どんどん変化しているな”と感じました。4月は入学式です。新しい環境に自分らしくなじめるよう、影ながら子供たちをサポートしたいなと思っています。（LY）